

災者へ金貳百圓施與候ニ付為其賞銀
杯壹個下賜候事

太政官

明治十四年四月十一日

右大臣從一位勲一等岩倉具視
開拓使管下函館區堀江町失火之節罹
災者へ金百五拾圓施與候ニ付為其賞
銀杯壹個下賜候事

太政官

明治十五年十一月一日勲記之寫

天祐ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐タ
ル日本國皇帝ハ右大臣從一位勲一等
岩倉具視ヲ明治勲章ノ大勲位ニ叙シ
菊花大綬章ヲ授與ス仍テ卿ハ此位ニ
屬スル禮遇及ヒ特權ヲ有スルヲ得一
シ

神武天皇即位紀元二千五百四十二年
明治十五年十一月一日東京宮城ニ於テ
親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

明治十四年
岩倉具視
勲記

御名



太政大臣兼賞勳局總裁從二位大勳位三條實美
元老院議官兼賞勳局副總裁從二位勳二等大給恒



此證ヲ勘査レ第三號ヲ
以テ大勳位簿冊ニ記入ス

賞勳局主事從五位勳五等平井希昌
賞勳局一等祕書官六位勳五等横田香苗



明治十四年六月

具視儀近頃持病之頭痛相發困難致候
間兵庫縣下有馬温泉ニ於テ入浴治療
致度往返日數ヲ除キ三週間御暇相願
度候也

右大臣岩倉具視

太政大臣三條實美殿

願之趣被聞食候事